

○ 調査問題

10

次の(1)～(4)の文の□に入るもっともふさわしい言葉を、あとの1～4の中からそれぞれ一つ選びましょう。

(2) 用事のとちゅうなのに、友達の家で油を□。

1 売る  
2 焼く  
3 注ぐ  
4 しぼる

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】  
○ 文中の空欄に当てはまる適切なことわざ・慣用句の一部を選択する。

【問題の内容】  
○ ことわざ・慣用句の意味を理解し、適切に使う。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答	2	3	4	無解答
解答率	62.2%	4.3%	30.1%	3.0%	0.4%

○ 正答率は62.2%であるが、30.1%の児童が誤答の3「注ぐ」を選択している。油が液体であるという性質に着目したり、「火に油を注ぐ」と混同したりしての誤答であることが考えられる。

○ 年間の指導計画の中で、慣用句やことわざについて学習する時間は少ない。限られた指導時数の中で、多くの慣用句やことわざに触れたり、使い方を練習する時間を確保したりすることが難しい。年間を通して多くの言葉に触れられるよう辞書を活用したり、家庭学習を通してことわざや慣用句を集めたりする機会を設定する必要がある。

○ 指導上のポイント

ことわざや慣用句、故事成語の指導

- 個の学習を広げましょう。



「体の部分を含む慣用句」「動物が入ったことわざ」など、辞書や辞典を使って探した慣用句やことわざを、カードまたは表にまとめてグループで共有する学習活動を組んでみましょう。個人の学習をさらに広げられるよう学習形態を工夫することが大切です。

手を使った慣用句には何がある？

猫の手も借りたいなんて、ほんとに忙しそうね。



「手を回す、手を染める、手を切る」、たくさんあるよ。「猫の手も借りたい」も慣用句ね。



- 目的を明確にしたペアやグループの話合いでは、次のようなことが期待できます。
  - ・ 他者に伝えることによる思考の整理
  - ・ 他者からの情報による新たな気づきや発想

【「授業スタンダード」の視点】：「ペアやグループでの話合い」で広がり深まる思考

- 表現を通して理解を深めましょう。

調べたことわざや慣用句、故事成語を解説させる活動を組みましょう。説明する機会を設定することで、調べた意味や内容の理解を深めることができます。調べたり集めたりしたことわざや慣用句を使ってクイズをつくらせたり自分の言葉で解説させたりすることで、知識が再構成され、内容理解が一層深まり、適切に使うことにつながります。



○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

① 口  
② 首  
③ 胸  
④ のど

(3)  から手が出るほどほし  
い。(どうしてもほしい気持ち)

① 目  
② 頭  
③ 手  
④ 足

(2) いそがしくて  がまわる。  
(とてもいそがしい様子)

① 鼻  
② 口  
③ 耳  
④ 目

(1) 母の注意は、 が痛い。  
(聞くのがつらいこと)

○ ( ) の意味に合うように  
 に入る言葉を①～④の中  
から選んで番号を書きなさい。

【出典】  
「定着確認シート」  
H24 小学6年 第6回